



ハンガリー政府観光局 ニュース 2010年11月25日 No.197

- 水陸両用バス リバーライド運行再開
- ブダペスト・エアポートタクシー会社変更
- 今年も100の天使クリスマス・ツリーを飾りました
- 中欧4か国 音楽の饗宴 12月15日(水)銀座王子ホールにて開催
- ハンガリー大使館料理長による料理教室 11月28日(日)
- 【コラム】ラベンダーの咲く庭で ～遙かなるパンノンハルマ～

### 水陸両用バス リバーライド運行再開

水陸両用バスを使ったリバーライド(RiverRide)市内観光バスは、一時運休していましたが、11月11日から運行を再開しました。

- ◆ オフシーズン中の運行時刻は、毎日11時、13時、15時の3回
- ◆ 所要時間はおよそ2時間
- ◆ オンライン予約やツアールート、料金などは<http://www.riverride.com/>(英語)から。



### ブダペスト・エアポートタクシー会社変更

この度ブダペスト空港会社(BA)はエアポートタクシーに関する入札を行い、12月初めから信頼性・低価格・高品質サービスを提供する Fötaxi 社が運行を行うこととなりました。

### 今年も「100の天使」のクリスマス・ツリーを飾りました

今年も、「100の天使」のクリスマスオーナメントをツリーに飾り付け政観ロビーに展示しました。お近くにおいでの際は、是非ご覧ください。

埼玉県在住の大島勝子さんご自身でレース編みされた天使100個をクリスマスオーナメントとしてツリーに飾りつけ事務所ロビーに展示しています。ハンガリー在住経験のある大島さんはブダペスト・クリスマスマーケットで購入した1個の天使を見本に、それぞれ個性豊かな天使達を作り上げました。



## 中欧4か国 音楽の饗宴 12月15日(水)銀座王子ホールにて開催

V4 中欧 4 か国(ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー)は、12月15日(水)の19時から銀座王子ホールにてV4 コンサートを開催します。

### ◆ 出演者

江崎昌子(ピアノ)	シャンドール・ナジ(ヴィオラ)
金子三勇士(ピアノ)	宮澤 等(チェロ)
ヘンリー・タタル(ヴァイオリン)	植村理葉(ヴィオラ)
木下順子(ピアノ)	佐藤彦大(ピアノ)
嶋田陽子(ピアノ)	

◆ 前売 2,500 円(全席指定)

◆ 当日 3,000 円(全席指定)

◆ サンリス 03-5485-7711

<http://www.senlis.co.jp/V4/>

◆ 銀座王子ホール: <http://www.ojihall.jp/>

## ハンガリー大使館料理長による料理教室 11月28日(日)

11/28(日)16:30 からハンガリー大使館料理長モルドヴァン・ヴィクトル氏によるクリスマスのヒントにもなる「おもてなし料理」教室が開催されます。

◆ 会場:TY キッチンスタジオ

◆ 東京都世田谷区奥沢 5 丁目 14 番 12 ガーデニア奥沢 101 号室

◆ 詳細は: <http://ameblo.jp/salondor/entry-10695811475.html>

<http://salondor.ocnk.net/product/48>

◆ 過去の模様 <http://ameblo.jp/salondor/entry-10528595333.html>

## 【コラム】ラベンダーの咲く庭で ～遙かなるパンノンハルマ～

飯田 愛紀

時間よりも大分早くワイナリーへやってきた私を待っていたのは小柄な可愛い受付嬢だった。

女、の子……？ 少し驚きつつ挨拶をし、予定より早く来てしまったけど……、と事情を説明すると彼女は予想だにできなかった一言を放った。「じゃあ、あなたが予約してた日本の女の子？」と。ズルッと漫画のようにズッコけそうになってしまった。「Yes.」と答えたものの、肯定することにかんまりの抵抗があったのは言うまでもない。眼前の彼女の方が私には年若に見えるのだけれども。しかしながら女同士、歳のハナシはタブーと言うことで。

時間前に来た私を彼女は快く受け入れてくれ、さっそくワイナリーの見学に連れて行ってくれた。予想と違い、ズラリとステンレスタンクが立ち並ぶ最新の設備。残念ながら一枚も写真を撮っていない。言葉に明るくない私は100%集中して彼女の話聞くことだけに神経を使っていたため、そんな余裕がなかったのだ。

ふと、下の階へ向かうエレベーターの中で彼女が私に聞いた。「修道院はどうだった？」ハッとして口を動かす。書庫に圧倒されたこと、そして庭のラベンダーが盛りだったと口にした瞬間にパッと彼女の顔が華やいだ。「そうなの！ いいニオイだったでしょう？」頷くと彼女は更に身を乗り出す。「ねえ、オイルとか石けんは買った？」もちろん、買いましたとも。「ナイ



ラベンダーの見えるテラス席。

ス！ 私も使ってるの」声を弾ませる彼女がとてもラベンダーの香りこのパンノンハルマを愛していることが伝ってじんわりと胸が温かくなる。互いの笑顔がこの後から増えたのは、おそらく気のせいではないだろう。

ワイナリーの見学を終えれば、お待ちかねのワインテイスティングだ。

室内とテラス、どっちがいい？ と聞かれて私はテラスを選択した。少し肌寒かったものの、パンノンハルマを一望できる席でワインを試飲するというのは寒さに勝る贅沢だろう。しばらくすると、彼女が1杯目のワインとおつまみを持ってきてくれた。「これはポガーチャ」。ポガーチャとはハンガリー独特のスコーンである。私の好物の一つでもある。



パンノンハルマ白ワインとポガーチャ。

ここでお詫びが一つ。ワインをテイastingしている間、私は彼女との会話に夢中で銘柄等々のメモを取るのをすっかり失念していたのだ。コラムを書く上ではこの上ない失態だが、実際に行き確かめてみてほしい——、と苦しい言い訳を付け加えておきたい。

私がテイastingしたワインは5種類、うち白が3、赤が1、ロゼが1であった。パンノンハルマと言えばやはり白、1杯目は少し辛目のドライ、2杯目はスパイシーなドライで香りが特に印象的だったと記憶している。

「寒〜い！」と、初夏らしからぬ冷風に耐えかねてか、彼女は奇妙な天気 of 愚痴を零しつつパーカーを羽織った。対して私は飲みすすめていたワインのおかげで大分温まった。そして何杯目のワインだっただろうか？ 唯一の赤ワインがグラスに注がれ、口をつけた私を既視感が襲った。緩い渋みと独特のスパイシーな後味。覚えがある。これは、エグリ・ビカヴェールだ。ハンガリーのみならず世界に名の通っているエゲルのビッグメーカーであるガール・ティボルのエグリ・ビカヴェールに酷似している。「エグリ・ビカヴェール？ ガール・ティボルの……」言いかけた私にすかさず彼女が説明してくれた。それもそのはず。パンノンハルマワインの復活のため、ガール・ティボル氏は監修と指導に尽力されていたからだ。味が似るのも、道理だろう。話をしつつ、私は計5杯のワインを残すことなく飲み干した。

私の旅はまだ始まったばかり。重いワインを持っての移動は厳しいためこの場で購入できなかったのが心残りだったものの、美味しいワインとお喋りを堪能して惜しみつつ笑顔で彼女と別れた。少々酔っぱらったまま元来た道を辿る。修道院の前を抜け、駅までひたすら坂を下るのだ。気分が高揚していたのか鼻歌交じりで笑みを絶やさず道を行く私は端から見れば実に奇妙だったことだろう。田舎道の素朴な草木を一つ一つ目に留めながら、駅も近づいてきた頃にふと後ろを振り返ってみた。緑の丘にそびえ立つ、パンノンハルマ修道院。緩く口を開きかけて、無意識にキュッと嚙んだ。一瞬にして酔い覚めへと誘われ、替わりに沸いたのは僅かな郷愁だった。この地の栄華も、不遇の時も、変わらずただ静かに町を見下ろしていただろう修道院。ならばきっと、1000年後の未来も変わらずあの丘に在るのだろう。

来年もまた、この季節が巡れば辺りはラベンダーの香りで満たされるだろう。また訪ねてみるのも良いかもしれない。今度こそ、青く晴れた夏の日に。

※パンノンハルマ・ワイナリー見学&テイastingは要予約。

ワイナリーHP→<http://www.apatsagipincszet.hu/>